

2024年4月30日基準

匿名組合/暗号資産

ファンド設定日:2022年2月1日

運用実績

期間収益率

2024年4月30日時点

	設定来	1 カ月	3 カ月	6 カ月	1年
14. 98% -6. 16%		27. 04%	41. 77%	76. 92%	

ファンドの運用概要

2024年4月30日時点

一口当たり

1, 149, 755円

前月末比

▲75,473円

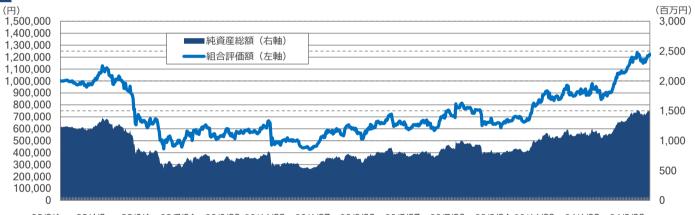
純資産総額

1,415百万円

※組合評価額は営業者報酬控除後の値です。

ファンド設定日:2022年2月1日

組合評価額等の推移



22/2/1 22/4/2 22/6/1 22/7/31 22/9/29 22/11/28 23/1/27 23/3/28 23/5/27 23/7/26 23/9/24 23/11/23 24/1/22 24/3/22 ※組合評価額は、営業者報酬控除後の値です。

組入資産の状況

2024年4月30日時点

	保有数量	評価額 (万円)	簿価残高 (万円)	評価損益 (%)	ポートフォリオ全体の 組入比率(円含む)	暗号資産内における 組入比率
втс	21	20, 251	10, 031	102%	14.0%	33.6%
ETH	237	11, 499	7, 750	48%	7. 8%	18.8%
XRP	870, 840	6, 836	6, 906	-1%	4. 8%	11.5%
ВСН	1, 322	9, 252	4, 870	90%	6. 3%	15. 1%
LTC	5, 506	6, 913	6, 276	10%	4. 8%	11.5%
LINK	8, 431	1, 770	1, 171	51%	1. 2%	2. 9%
DOT	40, 426	3, 962	7, 573	-48%	2. 7%	6.6%
合計		60, 484	44, 578	36%	41.6%	100.0%

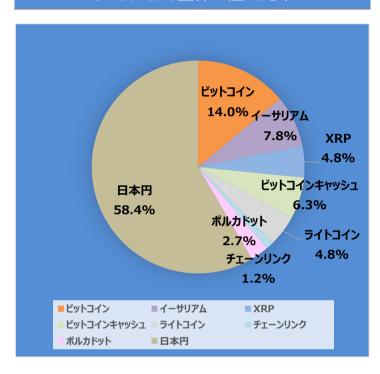


2024年4月30日基準

運用資産の状況

2024年4月30日時点

ポートフォリオ全体の組入比率



2024年4月30日時点

暗号資産内における組入比率



	ポートフォリオ全体の組入比率				
	通貨名称	コード	比率		
1	ビットコイン	ВТС	14.0%		
2	イーサリアム	ETH	7.8%		
3	XRP	XRP	4.8%		
4	ビットコインキャッシュ	ВСН	6.3%		
5	ライトコイン	LTC	4.8%		
6	チェーンリンク	LINK	1.2%		
7	ポルカドット	DOT	2.7%		
8	日本円	JPY	58.4%		
	100.0%				

※上表に記載の内容は基準日現在のものであり、将米予告なく変更する場合かあります。
--

	暗号資産内における組入比率				
通貨名称		コード	比率		
1	ビットコイン	ВТС	33.6%		
2	イーサリアム	ETH	18.8%		
3	XRP	XRP	11.5%		
4	ビットコインキャッシュ	ВСН	15.1%		
5	ライトコイン	LTC	11.5%		
6	チェーンリンク	LINK	2.9%		
7	ポルカドット	DOT	6.6%		
	合計	100.0%			



匿名組合/暗号資産

2024年4月30日基準

当月の市場動向と投資方針及びに運用状況

当月の市場動向

4月の暗号資産市場では、組み入れ銘柄が全面安となり、特にXRP(XRP)、ビットコインキャッシュ(BCH)、ライトコイン(LTC)、チェインリンク(LINK)、ポルカドット(DOT)は大幅安となりました。

4月上旬は、イスラエルがシリアにあるイラン大使館を攻撃したことや、米政府が暗号資産による違法取引が行われていたダークウェブ「シルクロード」から押収したビットコイン(BTC)の売却を準備していると伝わったこと、強い米経済指標を受けて米早期利下げ観測が後退したことが売り材料視され、上値の重い展開となりました。

一方、4日に半減期を迎えたBCHは急上昇し、BTCやイーサリアム(ETH)は、中国の資産管理会社が香港で現物に連動するETF(上場投資信託)の申請を行っていると報じられ、底堅く推移しました。

4月13日から14日にかけて、月初に大使館を攻撃されたイランが報復としてイスラエルに対してドローンやミサイルを使った攻撃を実行。中東情勢の緊迫化が高まり、暗号資産市場でもリスクオフの売りが加速しました。直近で買われていたBCHなどは売り一巡後も戻りが限られましたが、20日に半減期を控えたビットコインは下げ渋りました。

4月下旬は、バイデン米政権が過去100年間で最高のキャピタルゲイン税を提案していると報じられたことが嫌気されて弱含みましたが、香港の証券先物委員会(SFC)がBTCとETHの現物に連動したETFを承認され、新たな資金流入が期待されたBTCとETHの下値は限られました。

運用状況

- ・2024年1月25日に決算時に発生する費用対応のため、BTCを一部売却いたしました。
- ・2024年2月20日から2024年2月22日にかけて、リスク回避を目的として営業者の判断に基づいて各暗号資産の比率を下げ、現金比率を高めるリバランスを実施いたしました。
- ・(ご参考)組合評価額は各暗号資産のBid(投資家が売る場合の価格)に応じて計算され、4月末の組合評価額は1,149,755円です。なおご参考までに、Ask(投資家が買う場合の価格)で計算した場合4月末の組合評価額は1,172,926円です。

投資方針

- ・1暗号資産あたりの組み入れ上限比率20%とし、時価総額比率に応じた投資配分を行う運用は引き続き行っております。
- ・1暗号資産当たりの組み入れ比率が3営業日連続で25%を超えた場合、時価総額比率に応じた投資配分になるようリバランスを行う方針です。
- ・満期日の3か月前までは、1か月に一度、営業者の投資計画に基づいて、投資比率を変えて運用することがあります。





2024年4月30日基準

匿名組合/暗号資産

《ご参考》-組入する7つの暗号資産の概要-

暗号資産名称		コード				
	暗号資産紹介					
	ビットコイン	ВТС				
1	ビットコインは世界で最も流通している暗号資 ビットコインはブロックチェーンを利用することで、					
	イーサリアム	ETH				
2	イーサリアムはビットコイン同様にブロックチェーン イーサリアムにはエクスターナリー・オウンド・アカ・ て、スマートコントラクトはCAにより管理できる。 ています。	ウント及びコントラク	ト・アカウントという2つの種類のアカウントを	有し、通常の資金決済等はEOAに		
	XRP	XRP				
3	XRPは、Ripple社発行の国際送金のために 国境をまたいで円滑に送付することが可能であ					
	ビットコインキャッシュ	BCH				
4	ビットコインキャッシュは2017年8月1日、ビットコインがハードフォークしたことにより誕生した暗号資産です。 ビットコインと同様にプルーフ・オブ・ワーク(Proof of Work)を採用しており、発行数量上限は2,100万BCHです。 ビットコインキャッシュの発行はマイニングによって行われ、マイニング報酬も発生します。					
	ライトコイン	LTC				
5	ライトコインは、2011年10月ビットコインをベースに、元Googleのエンジニアであるチャーリー・リー氏によって発案された暗号資産であり、ビットコイン の抱える発行数量上限と取引の承認時間の問題を解決するために開発されました。 日常的な決済で利用しやすい暗号資産を目指しており、ビットコインよりも使いやすく、実用性に優れています。					
	チェーンリンク	LINK				
6	チェーンリンクは、2017年9月にアメリカのスマーた。ブロックチェーンネットワークに安全に外部デおり、多数のユースケースを打ち出しています。					
	ポルカドット	DOT				
	ポルカドットは、イーサリアム共同創業者で元	CTOのギャビン・ウ	ッド氏らによって2016年に立ち上げられ、	2020年5月にメインネットがローンチ		

※上表に記載の内容は基準日現在のものであり、将来予告なく変更する場合があります。

※暗号資産紹介は本ファンドのご理解を深めていただくために作成したものであり、個別の暗号資産への投資を推奨するものではありません。

ら、イーサリアムキラーとも呼ばれています。

されました。

イーサリアムのスケーラビリティ問題を補い、簡単に独自のブロックチェーンを作成できるなど、ポルカドットの実用性の高さが注目されていることか

月次レポート 情報提供資料

匿名組合/暗号資産

2024年4月30日基準

暗号資産投資に伴うリスクについて 2/2

51%攻撃リスク	ビットコイン、イーサリアム、ビットコインキャッシュ、ライトコイン及びチェーンリンクについては、悪意ある者がハッシュレート(マイナーの計算力)全体の 51%以上を有した場合、不正な取引を意図的に配信するリスクがあります。
バリデーターのリスク	エックスアールピー(XRP)については、信頼するバリデーターが意に反して結託した場合、台帳とデータを改ざんされる可能性があります。
投票力を持つ記録者の リスク	ポルカドットについては、投票力を持つ記録者が意に反して結託した場合、台帳とデータを改ざんされる可能性があります。
ソフトウェア不具合の エックスアールピー (XRP) については、ソフトウェアの新しいバージョンがアップデートされる前に入念な検証を リスク の可能性を最小化していますが、ソフトウェアの不具合が問題を引き起こす可能性は否定できません。	
秘密鍵の紛失等に係るリスク	SBI VCトレードは、顧客(営業者を含む)から預かる暗号資産をSBI VCトレードが秘密鍵を管理するウォレットに記録しています。かかる秘密鍵をSBI VCトレードが紛失することにより、そのウォレットに記録されている暗号資産を外部に送付できなくなり、結果として、SBI VCトレードが預かる暗号資産の価値が喪失するリスクがあります。
暗号資産取引に係る法 令・税制・会計処理変 更リスク	将来的に、法令、税制、会計処理又は政策の変更等により、暗号資産取引が禁止、制限又は課税の強化等がなされ、結果 として、暗号資産の保有や取引が制限される可能性があります。その場合、お客様に予期せぬ損失が生じる可能性があります。
訴訟に伴うリスク	エックスアールピー(XRP)を組成したRipple Labs, Inc. (以下「リップル社」という。)は、米国証券取引委員会からエックスアールピー(XRP)は証券法に規定される証券に該当し、エックスアールピー(XRP)の発行は証券募集の登録届出義務に違反して行われたものであるとして、2020年12月に訴訟を起こされており、現在、係争中です。当該訴訟の結果によって、エックスアールピー(XRP)の価格が大きく変動する可能性があります。
その他のリスク	暗号資産は発展途上であり、日々、暗号資産の基盤となる技術の開発・改良が進められています。その過程で、現時点では、 予測できない脆弱性などが発見され、暗号資産の資産価値を脅かすリスクとして顕在化する可能性は否定できません。このため上述したリスク以外にも、今後、リスクは生起し得ることにご留意ください。

本匿名組合を通じて暗号資産投資を行うことに伴うリスクについて 1/2

	,			
流動性リスク	営業者は本営業において、暗号資産市場の出来高に対して大きな金額の運用を行うことが見込まれます。SBI VCトレードは、一度に大きな額の暗号資産の取引を行う場合においても、円滑な取引ができるような仕組みを整備しておりますが、営業者による暗号資産の取引はSBI VCトレードとの間で又は同社を通じてのみ行われるため、期待どおりの価格・数量で執行される保証はありません。 匿名組合設立後、解約の申込みはできませんので、償還金をお支払いするまで現金化することはできません。			
営業者は、特定の暗号資産をポートフォリオに組み入れるため、多数の銘柄に分散投資を行う場合と比べて- 効果が得られず、特定の暗号資産の価格変動等がお客様に対する出資金元本の返還及び利益の分配にフ す可能性があります。				
運用実績がないことの リスク	本匿名組合は新規に組成されるものであり、また、暗号資産を主たる投資対象とする新規性の高いものであり、実績を評価する際に依拠できる運用実績がなく、また、営業者には多額の資金を暗号資産で運用した実績がありません。このため、実際の収益等が想定と大きく異なる可能性があります。			
契約期間満了前の償還によるリスク	2022年5月1日以降、1口当たり本匿名組合の財産が30万円を下回り営業者が早期償還することを決定し、これを営業者から本匿名組合員に通知した場合、又は営業者が本営業の継続が不適当又は不可能であると合理的に判断する場合には、営業者は本契約を契約期間の満了前に終了させることを決定し、本営業の清算を行い、お客様へ残余財産の分配を行うことがあります。このような場合にも、実際の償還金の額がお客様の当初の想定を下回ったり、当初想定していた利回りを下回ったりする可能性があります。			



かる逸失利益を喪失するリスクがあります。

定の暗号資産の取引が困難又は不可能となる可能性があります。

みがないことから、取引が遡って無効になるリスクがあります。

(営業者を含む) に提供できない可能性があります。



匿名組合/暗号資産

2024年4月30日基準

暗号資産投資に伴うリスクについて 1/2

品 1 英 注 1 英 元 1 7 7 7 7 1 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2		
暗号資産の性質に 関する基本的事項	暗号資産は、本邦通貨及び外国通貨とは異なります。 暗号資産は、本邦通貨又は外国通貨ではありません。また、特定の国家又は特定の者によりその価値が保証されているもので はありません。このような性質から、支払いを受ける側の同意がある場合に限り、代価の弁済のために使用することができるもので す。 なお、暗号資産の詳細(その主な用途、保有又は移転の仕組み、総発行量及び発行可能数量、流通状況、内在するリスク 等)につきましては、契約締結前交付書面の別紙「暗号資産概要説明書」をご確認ください。	
価格変動リスク 暗号資産の価格は、その暗号資産の需給、暗号資産市場全体の需給、法定通貨及び金融商品市場の動向等によりが変動します。また、暗号資産に関する新たな法規制や、規制当局の動向も価格の変動につながる可能性があります。こうな価格変動の結果、暗号資産の価格が下落し、損失を被る可能性があります。最悪の場合は、暗号資産の価値がぜる可能性もあります。		
暗号資産の発行者又は 管理者等の破たんによる リスク	暗号資産の発行者や管理者等の破たん又は当該暗号資産の移転等の仕組みを支えるコミュニティの崩壊等により、暗号資産の消失や価値の減少、暗号資産の移転が不可能となるといった事態が生じる可能性があります。また、これらの要因やその他の理由等に起因し、最悪の場合は、暗号資産の価値がゼロとなる可能性もあります。	
需給の不足に伴うリスク	暗号資産は一般的に、法定通貨と比較して流動性の面で劣ります。このことに起因して、需給のバランス次第で取引可能な量が十分でないことにより、円滑な売買が実現しない可能性があります。	
国・地域における 規制が行われるリスク	特定の国及び地域においては、暗号資産の売買及び保有が法律等で禁止されている場合があります。このことを原因として、その国及び地域における暗号資産の売買及び保有が著しく困難若しくは不可能となる可能性があります。その結果、暗号資産の需要が細り、価格が下落する可能性があります。	
暗号資産交換業者の 破たんによるリスク	営業者が行う暗号資産の売買等に関して、営業者が暗号資産交換業者であるSBI VCトレード株式会社(以下「SBI VCトレード」といいます。)に預託した暗号資産はSBI VCトレード保有の暗号資産と明確に区分して管理されています。しかし、万が一、SBI VCトレードが倒産したケースにおいては、SBI VCトレードの債務をSBI VCトレードの固有財産で完済できない場合、営業者が預託している暗号資産は当該債務の弁済に充てられる結果となり、営業者がSBI VCトレードに預託した暗号資産の全部又は一部の返還を受けられない可能性があります。	
サイバー攻撃による 暗号資産の 消失・価値減少リスク	ハッキング等のサイバー攻撃を通じて、SBI VCトレードが顧客(営業者を含む)から預かる暗号資産を記録しているウォレットのパスシード又は秘密鍵を第三者に知られた場合、そのウォレットに記録されている暗号資産が不正流出する可能性があります。 SBI VCトレードの財政状態次第では、かかる流出に伴う顧客(営業者を含む)の損失を補てんすることができない可能性があります。	

SBI VCトレードは、災害、公衆回線の通信障害、暗号資産の価値移転記録の仕組みにおける記録処理の遅延、その他の

SBI VCトレードが管理できない事情により生じた顧客(営業者を含む)の逸失利益について責任を負いません。このため、か

地震や洪水といった天変地異、戦争、テロ、政変・法律の改正、規制強化、暗号資産事情の急変など、特殊な状況下で特

ビットコイン、イーサリアム、ビットコインキャッシュ、ライトコイン及びチェーンリンクについては、確定的に取引が成立したといえる仕組

ビットコイン、イーサリアム、ビットコインキャッシュ、ライトコイン及びチェーンリンクについては、ハードフォーク(不可逆的な仕様変更)により暗号資産が2つに分岐し、相互に互換性がなくなるリスクがあります。その場合、大幅な価値下落や取引が遡って無

効になるリスクがあります。また、ハードフォークの結果、発生する新規コインを、諸般の事情によって、SBI VCトレードは顧客



システム障害に伴うリスク

特定の暗号資産の

取引が困難となるリスク

決済完了性がないリスク

ハードフォーク (ブロック チェーンの分岐) による

リスク

月次レポート 情報提供資料

匿名組合/暗号資産

2024年4月30日基準

本匿名組合を通じて暗号資産投資を行うことに伴うリスクについて 2/2

匿名組合を通じた暗号 資産取引に係る法令・ 税制・会計処理変更 リスク	将来的に、法令、税制、会計処理又は政策の変更等により、匿名組合を通じた暗号資産取引が禁止、制限又は課税の強化等がなされたり、匿名組合契約に関する税法の規定又はその解釈若しくは運用等が変更されたりした場合、出資者の税負担が増大し、その結果、出資者の受領する出資金の税負担考慮後の償還額に悪影響を及ぼすリスクがあります。また、本契約に基づく償還金にかかる源泉徴収税についての税法の規定又はその解釈若しくは運用等が変更された場合にも同様のリスクがあります。
暗号資産を貸し付けるり スク	暗号資産売却の円滑化を図るため、本匿名組合からSBI VCトレードに暗号資産を短期間貸し付けることがあります。 貸し付けた暗号資産は、資金決済法第63条の11に基づく分別管理の対象ではないため、本書10ページの『暗号資産交換 業者の破たんによるリスク』及びその他の書面等の記載にかかわらず、SBI VCトレードの暗号資産と分別して管理されません。 このため、SBI VCトレードが破たんした場合、貸し出した暗号資産の返還を受けられない可能性があります。また、貸し出した 暗号資産については、資金決済に関する法律第63条の19の2第1項に定める、他の債権者に先立ち優先して弁済を受ける 権利も有しません。
Ripple Labs, Inc. (以下「リップル社」とい います。との関係	営業者が属するSBIグループは、リップル社の保有する次世代決済基盤「リップル・ネット」に着目し、同社に対して出資を行っております。また、リップル社と合弁でSBI Ripple Asiaを設立するなど、協業関係を結んでおります。SBI Ripple Asiaは、リップル社の開発した分散台帳技術を活用した国際送金ネットワークであるリップル・ネットの導入支援などを通じて、リップル社の技術のプロモーション及び販売を行っております。

その他の留意点

- ・お客様が営業者と締結する匿名組合契約には、金融商品取引法第37条の6に基づくクーリング・オフの規定の適用はありません。
- ・匿名組合契約は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。 また、匿名組合契約は、投資者保護基金の補償の対象でもありません。

リスクの管理体制

営業者は、匿名組合のパフォーマンスの分析及び投資リスクの管理を行います。

その他

匿名組合の営業者は、次に該当する暗号資産への投資は行いません。

- (1) 法令又は公序良俗に違反する方法で利用されている又は利用されるおそれが高い暗号資産
- (2) 犯罪に利用されている又は利用されるおそれが高い暗号資産
- (3) マネー・ローンダリング及びテロ資金供与に利用されている又は利用されるおそれが高い暗号資産
- (4) 公認会計士又は監査法人による適切な監査が実施できない又は困難な暗号資産(これらに該当する暗号資産として、いわゆる匿名性の高い暗号資産を含む)

本資料のご留意点

- ○本資料は、SBIオルタナティブ・ファンド合同会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。
- ○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。
- ○本匿名組合は値動きのある暗号資産に投資しますので、組合評価額は変動します。したがって、元本保証はありません。
- ○本匿名組合の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。

